

令和6年度 自己評価書

1 本年度の重点目標

子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくり

2 本年度の経営方針

- (1) 確かな学力、豊かな人間性、健康・体力を支える力のバランスのとれた育みに努める。
- (2) 一人一人の主体性を大切に、個に応じた教育の推進に努める。
- (3) 教育課程を適性に実施し、部・学年・学級・教科経営の充実に努め、特別委員会の適切な運用を図る。
- (4) 学び合いながら実践的指導力や専門性の向上、授業改善に努める。
- (5) 小中一貫したつながりを大切に、保護者や地域住民の思いを反映した学校運営の工夫や改善に努める。

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

【評価の方法】

○自己評価の達成状況の数字は、教職員による学校評価アンケートの集計結果であり、下のA～Dの4段階で評価した人数を4段階で表した。(A：4点、B：3点、C：2点、D：1点)

[A よくあてはまる B ややあてはまる C あまりあてはまらない D まったくあてはまらない]

また、達成状況下段の()中の数字は、昨年度の数字である。

自己評価の達成状況は、A (十分である) : 3.0より大きく4.0以下
B (概ね十分である) : 2.0より大きく3.0以下
C (不十分である) : 1.5より大きく2.0以下
D (改善を要する) : 1.0より大きく1.5以下

○反省と改善の方向性の内容は、教職員による学校評価アンケートや保護者・生徒へのアンケート、反省職員会議の結果及び1年間の業務遂行状況を勘案し、自己評価したものである。

学校関係者評価 (自己評価の適切さ・改善策の適切さ)

- A : よくあてはまる・十分達成されている
B : だいたいあてはまる・おおむね十分である
C : あてはまらない・不十分である

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	反省と改善の方向性	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重点目標	学校教育推進の重点は学校や生徒の実態からみて適切であった。	A 3. 5	学校教育推進の重点は的確であると考え。現状に満足することなく、重点目標の保護者・地域への発信に努める。	A	A
	教育推進重点の内容に関して、全教職員の共通理解が図られて学校内外に周知されている。	A 3. 3	諸会議を通して、重点内容の共通理解を図ることができた。今後も工夫しながら、重点の確認を定期的に行い、学校運営に努める。		
	教育推進の重点項目は適切で、具体化され連携、協同体制が図られている。	A 3. 3	重点目標達成のために校務・学年において具体的に計画、運営することができた。今後さらに研鑽を重ねていく。		
学校運営協議会委員による意見		重点目標をもとに、生徒の実態に合わせて学校教育を推進することができていた。 小・中一貫した教育のもと、パートナー校や地域と連携しながら、子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校運営を目指していただきたい。			

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	反省と改善の方向性	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学習指導	生徒に気づかせ、育てる授業を行うなど、生徒を主体とした授業を実践できた。	A 3. 3	生徒が主体的に取り組む実践を行うことができたと考えが、若干下がっていることを踏まえ、今後も更に主体的に取り組める授業づくりに努める。	A	A
	基礎・基本の定着を図るための授業の工夫・改善を行えた。	A 3. 1	基礎・基本の定着を図ることができるような授業づくり、指導を目指し、今後も工夫・改善を行う。		
	生徒一人一人の良さや可能性を伸ばす授業を実践できた。	A 3. 3	TT 指導や少人数指導がより効果的なものになるように今後も検討する。		
	生徒・保護者が納得できる評価・評定を行えた。	A 3. 3	評価の方法を丁寧に説明し、生徒・保護者にとって信頼性のある評価に努める。		
学校運営協議会委員による意見		生徒が主体的に取り組むうえで、ICTを授業等で有効活用することができていた。 使用する際の情報モラルやデジタルとアナログの良さなどをパートナー校区で共通して9年間を通して指導していただきたい。			

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	反省と改善の方向性	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
生徒指導	指導の中ですき間をつくらぬよう協力・連携することができた。	A 3. 2	事実の共有、指導方針の共通理解などに努め、連携を密にとるよう努める。	A	A
	受容・共感的な態度で接し、生徒理解に努めることができた。	A 3. 6	問題行動を起こしたり、困り感があったりする生徒に対し、受容的な態度で生徒理解に努め、許容しない毅然とした姿勢も示すことができた。		
	事故の情報の綿密な交流を図り、共同して指導を行えた。	A 3. 3	連携をとって進めるという部分において更に改善できるところがあると考えため、連携に努める。		
学校運営協議会委員による意見		生徒の声を聞くための教育相談等の充実が図られていた。引き続き一人一人の子ども理解に努めていただきたい。			

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	反省と改善の方向性	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
心を育てる教育	諸行事・諸活動を通し、豊かな心を育むことに努めた。	A 3. 6	今後も生徒の心を育む活動づくりを意識して進められるよう努める。	A	A
	諸行事・日常生活の中で、強い意志・実践力を育てられた。	A 3. 1	課題を見付け、解決していく力を育成するため、日常生活を含め、様々な学習の取組の中で意識づけしていきたい。		
	奉仕活動や当番活動を通し、思いやりの心や勤労意識に対する関心を育てられた。	A 3. 2	奉仕活動や当番活動の機会が減る中、より工夫した活動を行うことで、心の成長を促す活動を工夫したい。		
	道徳の時間を通し、いじめや不登校、命に対する指導を行えた。	A 3. 5	道徳科をはじめ、教育活動全体を通して、いじめを許さない、命の大切さを考えさせる指導を今後も継続して行う。		
学校運営協議会委員による意見		生徒の活動を通じて、いじめ撲滅の標語を募集したり、道徳を通じて、命の大切さを学ぶ機会を設けることができた。家庭や地域との連携等を大切にして、他者を思いやり、命を尊重する心を育てていただきたい。			

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	反省と改善の方向性	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
組織・研修	校務・分掌間で円滑が図られ、有機的に機能していた。	A 3. 2	校務・分掌間での連携をはかるよう努めていたが、よりきめ細かな対応を目指す。	A	A
	各学年・学級の運営方針が具体的に実践されていた。	A 3. 3	各学年の運営方針や指導目標に準じて、概ね実践できたと考える。今後も具体的な実践を考え、取り組む。		
	校内や教科での研究・研修が充実しており、実践されていた。	A 3. 2	各教科でより良い指導や実践ができるよう、更に研究・研修に努める。		
	評価基準・方法が適切に説明され、情報として提供されていた。	A 3. 3	教育課程説明会、期末懇談等で適切に説明することができたと考える。評定方法は今後もより良いかたちの検討に努める。		
学校運営協議会委員による意見	生徒理解をはじめ、年間を通して計画的に研修を行うことができた。 小中で連携を深め、子どものために研鑽を積んでいただきたい。				

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	反省と改善の方向性	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
地域との連携	地域の特色を生かした教育活動を行えた。	A 3. 2	地域の人材を活用した学習活動を行うことができた。今後も生徒にとってより良い形で継続して行いたい。	A	A
	関係諸機関との連携を適切に行えた。	A 3. 2	関係諸機関と必要に応じて連携を図ることができたと考えるが、更に適切な形で連携をとることができると考える。今後も連携を密にして生徒への支援にあたりたい。		
	家庭への連絡をきめ細かく行い、家庭との連携が図られた。	A 3. 6	家庭との連携を図ることができたと考えるが、更に生徒への支援が適切にできるよう連携を密にしたい。		
	学校便りなどが地域に配布され、教育活動への理解が図られた。	A 3. 5	学校HPにおいて、学校便りを載せることで、学校で実践している取組を地域に発信することができた。		
学校運営協議会委員による意見	学校HPや「すぐーる」などを活用し、学校の情報を地域に発信することができた。また今年度CSを実施したことにより、地域とのつながりを意識した活動を行うことができた。 今後も、パートナー校区を中心として、地域と共に子どもの成長につながる活動を行っていただきたい				

